



高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

麦の黒穂予防に共同で

たぐみの石橋に

風呂を立て

温湯浸法とやらで

麦種の消毒をやった

温度計で水温をはかり

南京袋などを入れた

種をうで木に吊して浸たす

うで木

34 麦種の消毒

昭和40年代ごろまで、秋に稲の収穫が終わると、田や畑で麦を育てていました。白米だけのご飯は祭りや祝い事のときだけで、普段は大麦をまぜた麦飯が主食でした。米だけでは一年分の食糧を賄うことができなかったためです。また、小麦はうどんにして食べました。麦をまくのは11月ごろで、冬を越して春の田植え前に収穫しました。

絵巻には、病気を防ぐため、種まき用の麦を湯で消毒する様子が描かれています。病気にかけると穂が黒くなったり、葉が白くしなびて枯れてしまったりすることがありました。また葉同士がくっついてしまい、穂のつく茎が少なくなったり、穂に実が入っていなかったりすることもあるほか、収穫を迎える時期にヒョウが降ると、穂首がたたかれてちぎれてしまうこともありました。

収穫は6月半ばごろで、梅雨の時期と重なるため、穂の乾いている晴れた日を見極めて行いました。